

## 平成 24 年度 第 1 回 学校協議会議事録

日時 平成 24 年 10 月 17 日 (水) 15 時 30 分 ~ 17 時

場所 茨木工科高校 会議室

出席者

座長 1 名 委員 4 名 校長 教頭 事務部長 分掌長 3 名 系長 2 名  
職員代表 2 名 初任者 2 名

内容

### 1. 開会挨拶 (校長)

4 月に 2 つの教育に関する条例、大阪府立学校条例と大阪府教育行政基本条例が施行された。学校協議会も府の付属機関という位置づけとなり、委員の任命についても以前は学校裁量であったが、府立学校条例に基づき、委員会が任命する形になった。任期も原則 2 年ということになっている。年齢にも制限があり、原則 70 歳までということで、長らく座長を努めていただいた岡田東一先生には、非常に残念ではあったが、引き続き委員をお願いできなくなってしまった。今日は、この場でご挨拶、引継をしていただく予定であったが、日程が合わず、出席がかなわなかった。資料の冒頭にあるように、メッセージをいただいたので、ご一読いただければと思う。工業高校から工科高校への再編整備が進行していた平成 16 年から 8 年の長きに亘り、本校のよき理解者、応援団としてさまざまなご意見、アドバイスをいただいた。心からお礼を申し上げる次第である。

後任として、この後、ご挨拶いただくが、本校の 6 期生で、電子工業科を卒業され、現在、近畿大学生物理工学部教授を努めておられる本津茂樹先生をお願いした。お仕事柄、大変ご多忙だが、母校のためならということで委員就任について快諾いただいた。本来なら、座長は管理運営規則では会長とあるが、「大阪府立高等学校等の管理運営に関する規則」では委員の互選で選出するということになっているが、学校として、是非、本津先生をお願いをしたいと思っているので、ご了解いただければと思う。よろしいでしょうか。

さて、学校の方だが、昨日、後期始業式を終えて、平成 24 年度も下半期、後期に入った。4 月に校長に着任し、無我夢中で半年過ごしたという感じである。

大きな学校行事として、2 年生の北海道への修学旅行が 10 月 10 日から 13 日にかけて行われ、大きな事故もなく無事終えることができた。10 月の実施は平成 20 年度の 4 期生以来久しぶりのことであった。農業体験を取り入れるなど初めての試みで、準備までかなりの試行錯誤があったが、生徒には概ね好評であったようだ。別添資料にあるように、北海道新聞にも取り上げられた。

3年生は、就職の一次試験の結果が出た。一次合格率は58.6%で、ほぼ昨年並みである。この件については、協議事項の中で進路指導主事から詳しい報告をしてもらう。引き続き内定率100%をめざして、粘り強い指導を続けていく所存である。

冒頭申し上げたが、教育行政基本条例、府立学校条例が施行され、大阪の教育をめぐる状況は大きく変化している。学校協議会についても、その役割等が条例、管理運営規則で明確にされた。「大阪府立学校条例」に学校協議会の役割が書かれている。

府立学校条例第十二条の4に「学校協議会は、次に掲げる事項について協議を行い、校長に対して、意見を述べる事が出来る。」と書かれており、学校経営計画に関する事項、学校評価に関する事項、この項目については毎年学校教育自己診断を行っている。この結果について意見を求めたい。また、教員の授業についての意見も求めたい。今日も授業見学をしてもらう予定であったが、水曜日の6時間目はホームルームの時間であり通常授業ではなかったので次回協議会の時に見学を考えている。その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項、前三号に掲げるもののほか、校長が必要と認める事項がある。本校のホームページには保護者からの意見を求める様式を作っており、ダウンロードして意見を記入し、事務所に提出してもらうという形を整えているが、まだ反応はない。もし、保護者からの意見があり、学校として協議会の意見を頂戴する必要があると判断した時は招集をかけさせていただく。

今後、皆様から貴重なご意見をいただきながら、学校運営、経営を進めるので、何卒よろしくお願いしたい。

## 2. 座長挨拶

座長に指名された本津です。協議会の立場が変わったということで責任が重大である。6期の卒業であり非常に懐かしい気持ちがあるし、卒業生として教育、地域貢献で発展していけるように役割を果たしていきたい。

## 3. 出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

## 4. 平成24年度 前期での本校教育活動についての協議(司会進行：座長)

(教頭) 次第に書かれている順番とは違うが(3)の平成24年度生徒指導の状況等についてから行いたい。

(3) 平成24年度生徒指導の状況等について(生徒指導主事)

現状を包み隠さず話をする。成果が上がっていることは、身だしなみ指導である。

夏場になると、Tシャツ姿で制服を着用せずに登校してくる生徒がいたため、ここから始めようということで、生活指導部で登校時に通用門に立ち「制服を着なさい」という指導を始め、成果が上がっている。2番目は去年までは授業を受けずに廊下等を徘徊する生徒が目立っていた。すべての指導に関してしていることだが、懲戒指導をする段階まで至らない場合には「天声人語」の書き写しをさせている。文章を書くということに慣れておらず、集中させる意味もある。4日分の内容を書き写させるがどれだけ早くても1時間はかかる。書き写させることにより文章を読む、文章を書く、漢字を知る等のスキルを身につけさせている。生徒は嫌がっているが、そのおかげで授業を抜け出すものがほぼ無くなった。3番目は自転車のステッカー指導に力を入れている。ステッカー貼付指導を徹底して行い、茨木工科高校の生徒だと意識させている。今までに3回試験があったが試験のたびに自転車を調べ、貼っていない生徒を呼び出し指導をしている。4番目は集会での態度が悪くなかったため指導に力を入れた。私自身はまだまだできていないと感じているが、教職員の間ではだいぶ聞く態度が身に付いてきていると言われている。5番目は校内の美化にも力を入れている。懲戒指導を受けた生徒の事後指導として廊下等の清掃を生活指導部の教員と行っている。

別件ではあるが、昨日はクラブの生徒を中心とした167名の生徒と校外清掃を行った。通学路や公園を中心に地域貢献の一環として実施した。本津先生が在学中は廊下はもっときれいだったと思う。6番目は下足室の整備を行った。ロッカーの上に物を置くなど整理されていなかったが、不要なものはすべて撤去しいつ見てもらっても恥ずかしく無い状態にしている。7番目は遅刻者数を減らそうとしている。昨年度と比較して30%強減少している。遅刻を繰り返す生徒には「天声人語」を書かせている。さらに8番目として遅刻が多い生徒に関して行う遅刻指導の件数を減らそうとしている。ある一定期間の遅刻回数が多い生徒は特別に早朝登校の指導をしているが、早朝登校の対象になる生徒を減らすことに目的を置いている。

今後の課題であるが、懲戒件数は減っていない。苦情電話が入ればすぐに対応し指導を入れ、教員の本気度を示しているため、今後は減少するのではないかと期待している。2番目は授業態度を改善し、転・退学者の減少を目指す。

(委員) 子どもの指導は効果が認められるが、家庭の方はどうか？たばこを吸うなどというような指導をしているのか？

(生徒指導主事) 停学時の申し渡しに時間をかけている。管理職から指導の申し渡しがある前後に時間を取り、保護者も交え1件に大体1時間かけている。

懲戒指導を受ける生徒は総じて成績が悪い。試験中は居残り勉強をさせている。携帯電話で指導を受けたものは預かっているが、保護者から異論を訴えられたことはない。喫煙については「自分のことは聞かない」と訴える保護者も多い。かなり厳しく説諭するが帰るときに泣くんでいる保護者がいる。父親が不在の家庭も多く私が父親的な怒り方をしたときに感謝されている。

(委員) 懲戒の指導は何段階ぐらいあるのか？

(生徒指導主事) 3段階である。

- (委員) 事案ごとに協議しているのか？  
(生徒指導主事) そうである。校長訓告・停学・退学の3段階ある。  
(委員) 初めて停学を受けるときの日数は？  
(生徒指導主事) 過去の例もあるが、毎回会議を開いて協議して決めている。  
(委員) 校外清掃はいつからか？  
(生徒指導主事) 今年から生徒会を中心に実施した。生徒会役員、保健委員、クラブ員、有志で行った。昨日が第1回であり年に何回か行いたい。  
(委員) 茨木市から年2回清掃活動がある。地域と学校が連携してはどうか？  
(生徒指導主事) 学校もぜひ参加したい。  
(委員) 寄付してもらった木製ベンチも地域の人は喜んでいる。

(1) 平成24年度の学校経営方針と進捗状況について(校長)

平成24年度学校経営計画を見ていただきたい。

目指す学校像、中期目標、今年度の取り組みからなっている。

かなりのボリュームなので、特に重点的に取り組んでいるものを中心に説明したい。まず、中期目標の3本柱の概要を説明する。

1番目は確かな学力と規範意識を身につけさせるということである。先ほど生徒指導主事からも話があったが、学校のたたずまいを改善するという内容である。

2番目は工科高校の理念である専門分野の深化と高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続を推進する。特に資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制には重点的に取り組んでいる。

3番目は積極的なものづくりによる地域貢献活動を通して、実践的な知識と技術を学ばせることである。この中期目標を達成のための本年度の取り組み内容が2枚目以降である。3本の柱ごとに今年度の重点目標をあげている。その中でも特に力を入れている部分について説明する。

基礎的・基本的な学力の定着のところでの中期目標は学力と規範意識を身につけさせるであるが今年度の重点目標は として中退率改善をめざす取り組みを挙げている。中退率は、平成20年度が8.4%とピークで、21年度は5.7%、22年度は4.8%と減少傾向にあったが、昨年度は8.6%とピーク時に戻ってしまった。私学の無償化等で志願者が減り、さらに低学力層の入学が増加したことが一因であると分析している。ねばり強い指導で、一昨年水準に改善したいと思っている。本校は中退加配を1名を受けており、首席を中退防止コーディネーターに指名し、教育相談等の活性化にも取り組み、何とか退学者の増加に歯止めをかけたいと考えている。 として学び直しを活用した基礎・基本的な学力定着をめざす取り組みをしている。来年度、数学を中心とした学び直しを目的とした学校設定科目設置の方向で動いている。 として規範意識を身につけさせる取り組みは先ほど生徒指導主事が話したとおりである。校長マネジメント経費という比較的自由度の高い予算があるのだが、その中から清掃道具入れ25個を新調する予定である。

生徒の自立・自己実現の支援での部分では、 地域産業との一層の連携強化、資格取得に向けた取り組み、 就職試験に向けた取り組みについては特に力を入れている。工科高校との次世代産業共同研究型人材育成事業は、人気産業人材育成事業となり、その指定を受け、インターンシップ等において支援を受けている。 の地域産業との一層の連携強化ではインターンシップに力を入れようとしていたが、昨年は42名の参加があり今年は50名を目標にしたが、残念ながら目標には遠く及ばず23名にとどまった。しかし1年生の参加は増加している。

資格取得、 就職試験に向けた取り組みについてはこの後、担当者から詳しい説明がある。

地域連携・地域貢献の取り組みの推進では特に ものづくりによる地域貢献の取り組みについて申し上げたい。10年以上に亘り茨木市内の小・中学校にアルミ製の朝礼台の製作、寄贈してきた。昨年は東日本大震災で被災した宮城県の小学校に朝礼台を寄贈した。このような活動が評価され、平成24年度の「がんばった学校支援事業」において取り組みの成果がたいへん顕著で支援対象にする学校に、選ばれ、500万円の予算がついた。機械系の朝礼台や、電気系の茨木市のイルミネーション事業への参画が高く評価され公立高校では4校だけ選ばれたうちの1校となった。さらに、先ほどの校長マネジメント予算とは別に、校長マネジメント推進事業中期計画推進費で推進校に指定され、235万円の予算がつき、小型人工衛星の製作をすすめようとしている。従来のものでづくりに加えて、「茨木工科宇宙をめざす！」でPRしていこうと思っている。50周年記念事業へ向けた取り組みでも人工衛星に関する取り組み、マイコンカーに予算措置をした。記念式典等で成果を何らかの形で発表させる予定である。

今後とも、工業科の普通科にはない特色、優位性を最大限、学校経営に生かし、そしてそれを中学生、教員、保護者に効果的にアピールして元気な学校にしていきたい。学校経営計画について何か意見があったら聞かせてほしい。

(委員) ジュニアマイスターの制度は続くのか？

(校長) 資格にポイントが付いており、得点によりゴールドマイスターやシルバーマイスターの称号が贈られる。今年も昨年並みの人数になるだろう。

(委員) 学び直しの授業は卒業単位として認められるのか？

(教頭) 学校設定科目として認められる。

## (2) 創立50周年記念行事について(首席)

卒業生や旧職員、在校生に事業の案内を配った。記念品として生徒にはクリアファイル、マフラー型タオルを考えている。記念式典は12月1日に高槻の現代劇場で行うが、式典の後、視聴覚鑑賞行事とかねてジャズバンドの演奏を聴く予定である。さらに、正門の内側に時計を設置する。

(4) 茨木工科高等学校5期生(平成23年度)卒業後の進路について

(進路指導主事)

生徒の約8割は就職を希望している。求人開拓のための会社を100社ほど回った。昨年度は一昨年度より100名増の求人をもらった。174名が就職を希望し2月6日に全員の内定が出た。これは大阪府内の工業系の学校では最速である。

(委員) 進学希望者に対して補習はしているのか?

(校長) 進学希望者に関しては接続コースを設定している。

(委員) 人数は増えてきているのか?

(教頭) 一定ではない。多い時は25名ぐらいの時もあるが、最近は10名前後である。

(校長) 接続クラスとして1クラス作っている。また、深化コースから進学する生徒もいる。

(委員) 就職から進学にも変更できるのか?

(進路指導主事) 可能である。昨年就職から進学に変更した5名について顕著な例であるが、本校は京滋地区の大手企業からも求人が来る。その企業を受けたが失敗した場合は他の企業に流れるのではなく、保護者の方の意向として進学に切り替えた生徒である。

(校長) 他校ではJR西日本の受験に失敗し、工科高校推薦枠で関西大学を受験するという例もある。

(5) 平成24年度の進路状況について(進路指導主事)

現3年生の状況を報告する。今年度の就職希望者は181名で、一次合格者は106名である。率としては昨年度と大体同じである。今日現在の内定率は65.7%である。今年の特徴は家電メーカーからの求人が全くなかったことである。今年は電鉄関係を希望する生徒が多く10名いた。結果的には4名合格し、内訳は阪急電鉄1名、JR西日本2名JR東海1名である。今年度の求人の数は328社・418名分である。進学に関してはまだ結果が出ていないので次回報告する。

(校長) 工科高校特別推薦という制度があり、関西大学、大阪工業大学、大阪産業大学龍谷大学に出願している。

(委員) 家電関係からの求人がなかったということだが、専科ごとで進路に差が出るのか?

(進路指導主事) 普通校にも求人が出ているので学科の差は無い。

( 6 ) 平成 2 3 年度資格取得実績及び平成 2 4 年度の中間報告 ( 教頭 )

第 2 種電気工事士の取得であるが昨年度と比較して人数が減っているが、これはもとの母数が違うためであり合格率はさほど差がない。検定試験や、卒業後に交付される技能講習等についてもそれほど差がない。

( 電気系系長 ) 第 1 種電気工事士は筆記試験に 8 名合格している。

( 環境化学システム系教員 ) 危険物の取扱者の試験に向けて 3 学年とも講習を行っている最中である。

( 教頭 ) 1 年生の危険物取扱者の講習は 4 月から 7 月までは早朝講習を行っていた。毎日 7 時 3 0 分から 1 時間、多くの生徒が講習を受講していた。

( 委員 ) 玉掛け技能とはどのようなものか ?

( 機械系系長 ) 重たいものをクレーンでつり上げるときの技術である。ワイヤーの本数や太さを計算したり、ワイヤーをかける場所を決める技能である。小型車両はコンボと呼ばれる機械であり、生徒が受験しているのは 1 トン未満の操作である。フォークリフトについてはすべてのフォークリフトに乗れる資格であり、3 7, 0 0 0 円の受講料がかかるが、希望する生徒が自己負担で受験している。

( 座長 ) 母数が減ったという話があるが、定員が減ったのか ?

( 教頭 ) 1 年生から 2 年生に進級する生徒が減った。機械系が 1 6 0 名の定員、電気系・環境化学システム系がそれぞれ 8 0 名の定員であるが、3 2 0 名の定員が 2 年生では 2 5 7 名になった。

( 座長 ) 資格と就職に関して相関関係はあるのか ?

( 進路指導主事 ) 無いとは言い切れないが優先順位としては低い。面接でコミュニケーション力を見られ、次に基礎学力、資格は 3 番目以降である。

( 7 ) 平成 2 4 年度クラブ等実績 ( 中間報告 ) について ( 特別活動指導部長 )

本校には 2 5 のクラブがあるが、集会で表彰された結果を載せている。

機械研究部が第 2 4 回全国日本ロボット相撲近畿大会で「高校生部・ラジコン型」で 4 位に入賞し 1 1 月末におこなわれる全国大会に出場する。

( 8 ) 平成 2 4 年度行事予定 ( 教頭 )

教務部長が出張しているので代わりに説明する。学校の行事予定は例年通りとなることが多いが、今年度は変更された点がある。学校独自の予定ではないが 2 5 年度から入学者選抜の方法が変わる。授業料の無償化と入試の日程が公立と比較して早く行われることで中学生が私学に流れる傾向がみられた。このことにより府教育委員会が 2 月 2 0 日に学力検査を実施するように変更した。例年ならば、2 5 日ぐらいに行われていた。さらに本校が行っていた前期選抜の日程に普通科の学校も入ってきた。7 クラス募集な

ら2クラス分を前期選抜で決定する。昨年は本校と競合する公立はあまりなかったが今年度は多くの普通科と競合することになる。今日その説明が行われており教務部長が出席している。

(座長) 入学者選抜とはどのようなものか？

(教頭) 昨年までは国語・数学・英語の試験を行い、内申点と合わせて決定していたが今年からは国語の作文がなくなり小論文となり30点で採点を行う。工科高校はすべて小論文が課せられた。

(座長) 採点は誰がするのか？

(教頭) 採点は我々が学校です。小論文は誰が採点するか決まっていない。国語の教員が採点するのがいいのだろうが、国語の試験もあり負担が大きくなる。

(校長) 来年度の入試はかなり厳しいものになるだろう。中学校を訪問し、進路指導主事等と話をしているが定員を割る可能性がかなり高いと中学校に言われている。本校に入学してきた生徒でも普通科に行きたかった生徒は一定数いる。来年度は前期試験に普通科が入ってくるのでそのような生徒は普通科を受検するだろう。

(9) 質疑及び意見交換(その他)

(座長) 授業参観は保護者を対象にして行うのか？

(教頭) 6月のPTA総会の前に時間を設定した。土曜日に授業を行い5時間目を参観に6時間目に総会をした。

(座長) 教員同士は授業を参観し合うのか？ 授業アンケートはあるのか？

(教頭) 11月に参観週間を設けて教員同士がお互いに授業を見る機会を作っている。授業アンケートは今年度より年2回取ることになった。前期末の10月と年度末に行い前期末の分は現在集計中である。

(校長) 授業アンケートの結果については来年度より教員評価の1つの要素に組み込むよう指示が出ている。

閉会のあいさつ(校長)

我々教員とは違った観点から見ていただいた質問を受けてありがたかった。次回は2月ごろに開催を予定しているのでよろしく願いしたい。

事務連絡(教頭)

校長からも話があったが、次回の協議会の日程だが例年ならば合格発表の日で開催している。しかし今回授業見学を入れられなかったので日程を調整して連絡する。